



おぐら
尾倉

校訓
自主
創造
協力



令和4年7月14日(木)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

＜学校教育目標＞

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

＜目指す生徒像＞

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

【生徒会長 江口さんお礼の言葉】

小野先生、小松先生、今日は尾倉中学校に来てくださりありがとうございました。戦争当時の状況と言葉と資料で学ぶことができ、戦争の怖さを改めて感じる事ができました。私たちは大空襲を受けた地域として、この歴史をこれからも伝え続けていきたいです。また、今の日本は、戦争がなく平和だと思います。しかし、命に関わる犯罪などは今も続いています。ですから、この学習を通して「命の大切さ」を知り、少しでも命を大切にできる社会になるようにしていきたいです。今日は本当にありがとうございました。

平和授業実施【北九州平和資料館】

7月11日(月)5・6校時全学年を対象に平和学習を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインで行いました。講師は「北九州平和資料館(若松区)」の小野 逸郎 先生と 小松 芳子 先生です。まず、小野先生から講話をしていただき、その後小松先生の講話へと続きました。6校時は、学年ごとに戦争の資料を見学しました。実際に触れてみる事ができました。生徒のみなさんは、何を感じる事ができたでしょうか。(長崎、大刀洗など多くの平和資料館がありますが、実際に触れることができる資料館は少ないそうです)

平和学習は、ただ単に戦争についての知識や理解を深めることだけではありません。平和な世界を築くためには、まず、身近なところ(学校や地域)から争いごとをなくし、相手の違いを認め合い、相手を思いやる必要があります。そのことが平和な社会(世界)の根柢のあることに気付いてほしいと思います。また、戦争について「知る」ことにより、自分の生き方を振り返り、未来への生き方を見つめ直すきっかけになればと思います。

校長先生のお母さんは戦争当時広島に疎開していました。疎開先は、広島市からかなり山に入った場所でした。広島市に原爆が投下された朝、疎開先の村から「きのこ雲」が見えたそうです。そして、次の日から多くのけが人や死んだ人々が運ばれてきて、小学生だった先生のお母さんは、ケガをした人たちの世話をしたそうです。今でもはっきり覚えていて、よく話してくれます。

【校長先生の話】

みなさん、こんにちは。今日は平和授業です。今日のめあては、「身近な戦跡を知り、平和の尊さについて考える」です。北九州平和資料館の小野先生、小松先生を講師に迎え、大切なお話をさせていただきます。

みなさんは、平成に生まれ平成に育ち、そして令和という時代を生きています。平成という時代は、日本が一度も戦争という過ちを起こさなかった時代です。ですから、多くの人たちが戦争を知りません。

「温故知新」ということばがあります。「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る」という意味です。先生を含め、戦争を知らない皆さんは、今日の戦争体験の話聞くことを通して過去のことを学び、その学びをこれからの未来につなげていかなければなりません。この時間、しっかり話を聞き、考え、次につなげてください。

では、小野先生、小松先生よろしく願いいたします。



新型コロナウイルス感染症関連(お知らせ)

新型コロナウイルス感染症が再拡大しています。北九州市では、小、中学校での学級閉鎖・学年閉鎖が増加傾向にあります。基本的な感染対策が学校でも行っていますが、ご家庭でも「3密」を避けるようご協力をお願いします。また、熱中症も心配です。登下校の際はマスクの着用は必要ありませんが、身体的な距離を確保しつつ登下校するようお願いいたします。新型コロナウイルス感染症について、心配な点がりましたら学校(担任)までご連絡ください。(コロナ関係は欠席にはなりません)